



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第24回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 いじめ事件に思う

日本高野連から発表される処分の中にも「いじめ事件」が含まれています。残念という思いだけでは済みません。無くならないものでしょうか。

全国的に学校でのいじめ事件が大きな社会問題になっています。「高校野球の部内でも…?」と思った人も少なくないでしょう。大きな災害や事故で「支え合い」や「寄り添うこと」の尊さをかみしめながら、その反対の世界を創造してしまうことに憤りすら感じます。いじめられている仲間はもちろん、いじめている仲間にもイヤな思い出だけが残るのです。自分のことしか考えられないようでは野球は無理…とは言え大切な球友。各自の個性を認め合うことを忘れず、改めて野球の時間を過ごしましょう!

マナーは礼儀や作法を意味しますが、人との接し方・物事への対し方の基本となる大切な言葉です。鏡の前で素振りするとき、顔の表情を見てみませんか。いろんな意味でキャッチボールの大切さを忘れていませんか…。

「高校野球は教育の一環」と言われるには多くの意味があります。指導者や先輩、また仲間から教えられたことを糧に、お互いが育みあっていく学びの場です。学べることに対する感謝の気持ちを素直に発信しましょう。「感謝」のある所に「いじめ」は存在しないのです。

ルール編 投手と打者のタイミングが合わず、試合が停滞 (秋季県大会でのプレイ)

試合も終盤、スコアは0対0の接戦。投手と打者のタイミングが悪い様子です。球審は、「さあ、行こうぜ!」などと声掛けをしていましたが、せかしているようにも思います。試合も緊迫しており、両者とも緊張感の中で各々のタイミングを大切にしているだけではないのですか?

野球は投手が打者に投球し、打者が投球を打つことによって試合が進行するのが基本です。そのため、投手の投球、打者の打撃について規則が定められています(規則5・03~5・05)。さらに規則8・04には、「塁に走者がいないとき、投手はボールを受けた後12秒以内に打者に投球しなければならない。(中略)

(1) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球をすること。」

(2) また、これを受けた投手は、ただちに投球板を踏んで、投球位置につくこと」と規定されています。

また、6・02(a)には、「打者は自分の打席がきたら、速やかにバスターボックスに入って、打撃姿勢をとらなければならない」と規定されています。

投手・打者がこの規定を理解して自分のタイミングを大切にすることは問題ありません。球審が両者に声掛けをしていたのは、基本的なルールから外れて、「互いに、変にじらし合っている」としか思えなかったからです。

スポーツ競技に大切なリズムやスピード感を忘れてはなりません。それはいろんな場面で活気や躍動を生み、充実感のある試合を作り出すでしょう。

